

フォーラム・セミナー報告

第5回関西大学FDフォーラム「きく力を涵養する」を開催しました

日時：2011年7月14日(木) 14：40～16：10 講師：穂田照子 氏（桜美林大学准教授）

関西大学教育開発支援センターが、教育GP「三者協働型アクティブ・ラーニングの展開」に着手して、はや三年が経過しようとしています。「アクティブ・ラーニング」の実施においては、学生が自ら思考し、表現することを促す授業作りが基軸のひとつになりますが、思考や表現といった「アウトプット」の質を向上させるには、「インプット」の質にも着目する必要がある、ということが取り組みを通じて明らかになってきました。分けても、「きく」というプロセスは、大学の授業の中での「インプット」の多くを占めています。ですから「きく」の質を上げること、そして、「自らきく」という姿勢を学生の中から引き出すことが、授業の成果をあげ、すぐれた学習成果をうみだす鍵を握っていると言えるかもしれません。また、「きく」に対する学生の意識を高めることは、私語の抑制など学習環境の向上にもつながるといわれています。

このような理由から、当センターは「きく」に着目しています。そこで、フロンティアとして「きく力」を伸ばすための先進的なプログラムを実践しておられる桜美林大学の

穂田照子准教授をお招きし、学生のきく力を涵養するために授業のなかでなにができるか、についてご講演いただきました。ご講演は、「きく」という行為には「聞く」、「聴く」、「訊く」などの複数の種類があること、単純に見えるそれらの行為が、実際には複合的なプロセスからなること(HURRIEモデル、MKSPモデルのご紹介)、など基本的な概念のご説明から、「きく力」をひきだすために通常授業のなかでもできる工夫やノウハウ、また正課としての「きく力」育成の教育プログラムやその効果、といった具体的な実践部分にまでわたり、実際に「きく」が学生にとって幅広い学習の基礎となっていることが（たとえば、聴く力のある学生が、大学院博士課程に多く進む、といった研究結果などの紹介も交えて）明確に示されました。

本学にはまだ、具体的な正課の授業として「きく」にのみ焦点を当てた科目はありません。

りませんが、今回のフォーラムでは定員100人余りの教室が満員となったことからも、多くの先生方から「きく」に対する期待が寄せられているということがうかがえます。より深いレベルでのアクティブ・ラーニングの推進や、授業環境の改善という観点からも、本センターとしてはさらに積極的に「きく力」を育てる手法の紹介や情報提供に努めてゆく必要があると考えています。また、授業科目を正課として立ち上げてゆくという方向性を検討してゆくことも、今後の課題の一つとしてあげられるかも知れません。（教育推進部 須長一幸）



穂田講師ご講演の様子

スタディスキルゼミ担当者情報交換会(ワークショップ)を開催しました

日時：2011年8月30日(火) 13：00～16：00

大学での学びに必要となる基礎的スキルを少人数ゼミ形式で総合的に訓練する授業として、全学共通科目のB群／エンパワメント科目群にスタディスキルゼミが開講されている。

このスタディスキルゼミが7つの各テーマ（「ノートをまとめる」・「パソコンで学ぶ」・「レポートを作成する」・「プレゼンテーション」・「ディベート」・「課題探究」・「新聞で学ぶ」）に分けられ、早くも3セメスターが経過しました。テーマが多様化したことにより、学生のニーズに即したきめ細やかな授業を運営することが可能になった一方で、新しく開講された授業を担当される先生方のご負担が増えたことは想像に難くありません。

そこで本センターでは、去る8月30日に、スタディスキルゼミをご担当いただいている先生方を対象に、授業運営に益すること

を主眼としたワークショップ形式の情報交換会を開催いたしました。

プログラムの内容としましては、先生方の日頃の授業実践を通じて得られた知見や授業実践事例、受講学生の傾向などといった情報交換を中心としたものといたします。新しく開講された科目を担当する先生方のご苦労の多くは、授業運営に関するノウハウやTIPS、コンテンツ等の情報不足によるものが多いと考えたためです。

参加された先生方は、ご自身の授業の到達目標やねらい、また、授業において工夫されたことや、問題や課題を感じた点等、言葉を尽くし丹念に情報をご提供くださいました。シラバスのみならず授業実践のとりまとめをご持参くださった先生や、授業における具体的なTIPSをご提

供くださいました。授業実践の中で発生した要望が先生方から寄せられる場面もあり、本センターとしましては貴重なご意見を伺う良い機会になりました。情報交換が活発に行われ、「教員の固有の営みである授業実践の中であっても、共通の課題があるのではないか」ということが見え始めたところで、ワークショップの終了時刻となりました。

午後一杯を使っての“スタディスキルゼミ担当者情報交換会(ワークショップ)”。長丁場ではありましたが、たいへん密度の濃い情報交換のひとときを持たせていただきました。

当センターでは、今後も先生方のニーズに即した情報交換会を開催したいと考えております。ご要望など、どうぞお気軽にセンターまでお寄せくださいますようお願い申し上げます。（教育開発支援センター）